

連携施策群活動のマネジメントにより生み出される付加価値及びその評価について

【問題意識】

科学技術のより優れた成果を生み出す新たなシステムとして創設された科学技術連携施策群について、どのような視点で評価すべきか。

【付加価値（成果） 評価の考え方】

科学技術連携施策群のシステム全体が効果的であったか否かは、本来的には、個々の連携施策群において目標がきちんと設定されている（フロントローディングができています）ことを前提に、目標に対する実行状況（進捗）が順調であるか否かによって判断すべきである。その際、連携施策群マネジメントの付加価値（成果）として一定のラインを明確にする（アクセプタンス・クライテリアを設ける）ことは可能か。

また、個々の連携施策群において、目標に対する進捗（達成度）を定量的に計ることのできる具体的目標・指標を設けることは可能か。

なお、個々の科学技術連携施策群の活動に関連し、比較的定量化が容易な指標として、

- ・ 調整により改善を行った施策
- ・ 新たに連携を行うこととなった案件
- ・ 不必要な重複の排除を行った施策
- ・ 予算の効率化（削減）を行った施策 等々

があるが、これらを評価の参考として活用することは妥当か。